

「ちばっ子の学び変革」推進事業 令和6年度 研究報告



神崎町立神崎小学校

Ⅰ 学校紹介

- ・令和5年度に創立150周年を迎え、香取郡市の中でも伝統ある学校
- ・学校目標「自ら学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成」
校訓「勤勉・親切・正直・勇気」

<地域>

- ・自然豊かな環境にある
- ・「発酵」をテーマに町おこし
→町行政・地域の積極的な協力を得ながら、町の特色を生かした学習カリキュラムを組んでいる



2 研究主題

自分の考えをもち、主体的に伝え合う児童の育成
～説明的文章の読みの指導に焦点を当てて～

<主題設定の理由>

本校の国語科の経営目標

：「児童が主体的に取り組む楽しい国語学習のあり方を求め、児童一人一人の言語能力を向上させる」

児童の実態（R5の全国学力・学習状況調査の結果より）

：説明文の読解と資料の読み取りに課題

※令和5年度の取組

読むこと	書くこと
☆資料を読み取る力を高める ・社会科でも資料の読み取りや比較の学習を行う ☆文章の大事な部分を落とさず読む力を高める ・文章の構成を指導する ・大事な部分に印をつけながら読む ☆文章の大意を捉える力を高める ・要点を見つけ、要約する活動を取り入れる	☆書くことに対する抵抗感を減らす ・書き方の型を提示する ☆条件を満たして書く力をつける ・キーワードを提示し、それを満たして書く活動を取り入れる ・教師の採点基準を明確にする
＜土台＞ ☆言語能力 ・語彙を増やすため、「言葉ブック」を作成し、活用する ・自分の考えをもち、表現する場と手立てを講じる	

令和5年度の取組の成果

R6全国学力・学習状況調査の結果より

※全国（公立）の平均正答率を100とした場合の相対値の推移

<読むこと>

R5: 96.6 ⇒ R6: 96.9



<書くこと>

R5: 60.3 ⇒ R6: 117.8



3 研究の仮説

- (1) 「話したい」「聞きたい」という**思いがもてるような仕掛け**を工夫し、児童同士が**考えを話したり書いたりする場面**を全ての教科でもうけていくことにより**主体的に伝え合う**ことができるであろう。
- (2) 説明的文章の読み方や学年ごとの目標を明確にし、「**単元のめあて**」を意識した授業づくり、**振り返り**の方法の精選、「**自分の言葉で学習のまとめを書く**」ことを**継続**することで、**文章を読み取る力**や、**目的や条件に応じて書く力**の向上を図ることができるであろう。
- (3) **並行読書**の推進、**言葉ブック**の活用、**文章読解5分間ドリル**の継続などにより、学びの土台となる**言語能力**向上を目指せるであろう。

4 推進体制の構築

(1) 低・中・高学年に分かれて、以下の内容について話し合い、
めあてや課題について共有し合う職員研修（理論研修）を実施

○学習指導要領の

読み合わせ

- ・説明的文章の読み方の統一
- ・つきたい力の明確化

★「単元のめあて」

の設定

★振り返りの視点

○読解ドリルの活用

○言葉ブックの活用

（情報共有）

(2) 「実践モデルプログラムを活用した授業のためのチェックシート」
を活用し、定期的に授業を振り返る

5 授業改善の取組

(1) 単元のめあての設定と振り返り

単元でつけたい力を明確にする(理論研修)

説明的文章の単元の見通し

(5) 年

教材名	単元でつけたい力 ※思考・判断・表現の「読むこと」の内容	単元のめあて(単元を通した学習問題) ※児童に伝えるめあて
(例) 「うめぼしのはたらき」 「めだか」	① 段落相互の關係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との關係などについて、叙述を基に捉える力。 ② 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する力。	(例) 「中心となる言葉や文に気をつけながら読もう」 「中心となるところを見つけながら読み、短く文章にまとめよう」 など
「新聞を読もう」	ア 事実と感想、意見などとの關係を叙述を基におさえ、文章全体の構成をとらえて、要旨を把握する力。 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする力。	「書き方のよさを見つけながら、新聞を読もう。」
「ことなる見方」 「言葉と事実」	ア 事実と感想、意見などとの關係を叙述を基におさえ、文章全体の構成をとらえて、要旨を把握する力。 ウ 目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする力。	「事例と解説をもとに筆者の考えを読みとこう。」
「世界遺産 白神山地から」	オ 文章を読んで、理解したことに基づいて自分の考えをま	

(1) 単元のめあての設定と振り返り

単元のめあてに対して振り返りを行う

→ 単元通して振り返りが書ける、ワークシートの活用

<単元名>	ふり返しカード	名前 ()
<単元のめあて>		

時	月日	「単元のめあて」に対するふり返し
1	/	
2	/	
3	/	
4	/	
5	/	
6	/	

『アイス暑いほどおいしい?』『雪は新しいエネルギー』振り返り

名前 ()

【学習の始め】

写真や図などがあると分かりやすいところもあるけど、まだ分からないところもあってこれから理解していきたいです。

時間	内容	◎・○・△	感想
1	文章とグラフの読み取り	◎	文章とグラフを結びつけて読み取るの意味が分かって読み取れたのでよかったです。
2	説明文の読み立て、問いかけの文	◎	説明文が3つのパートに分かれていて、問いかけの文のいちがよかったです。
3	文章の全体をつかむ	◎	理由・具体例・原因の場所や内容がよかったです。全体の問いかけもよかったです。
4	雪の冷熱エネルギー	◎	雪の冷熱エネルギーのことをよく読み取れて自分で考えたことがたくさんあったのでよかったです。

(1) 単元のめあての設定と振り返り

振り返りの視点を明確にする

振り返りの目的を明確にした視点

①これまでの学びを自覚する

- (例) ・分かったことは何かな？
・大事なことは何かな？
・どの考えも結局どう見ているということかな？ など

②これからの学びを見通す

- ・新しくやってみたいことは何かな？

③次の学びを生み出す

- ・まだ分からないことはあるかな？

振り返りの内容を焦点化した視点

④学習の過程を振り返る

- ・どんなことを使って考えたかな？
・どうしてできたのかな？
・コツは何かな？

⑤認知の過程を振り返る

- ・どんなところに注目するのがよかったかな？

⑥他者の振り返りの内容を自分の学びに生かす

- ・友達の振り返りの中で似た考えはないかな？

◎単元のめあてから振り返る ・単元のめあてがどう達成されたかな？

(1) 単元のめあての設定と振り返り

<児童の変容>

- 全体：児童の書ける量が増え、抵抗感が減った。
- 低学年：国語・算数において、学習問題に対応した振り返りを書く他に、「どうやったら解けたか」「どんなことができるようになったか」を書く児童も見られるようになってきた。
- 中学年：分かったことだけでなく、感じたことや疑問に思ったことなどを踏まえてまとめる力がついた。
- 高学年：単元の初めと終わりで、自分にどのような力がついたか、何によって理解が深まったのかなど、自分の変容や学びの過程を捉えている姿が見られるようになってきた。

(2) 主体的に伝え合う手立ての工夫

○1年生「のりもののカード」でしらせよう
(乗り物の「つくり」を考える場面)

- ・避難訓練で実際の救急車を見学する
- ・「つくり」に注目できるよう、車体の写真を見せた後、車内の写真へ替える



↓

視覚的な情報があることにより、より多くの「つくり」を見つけ、
自分の見つけたものを主体的に伝え合う姿が見られた

(2) 主体的に伝え合う手立ての工夫

○1年生「のりもののカード」でしらせよう
(乗り物の「つくり」を考える場面)

その「つくり」が、

「何のために使われるのか」

をキーワードに、全体とグループで伝え合い



キーワードをもとに伝え合うことで、

「やくわり」に沿った「つくり」を選ぶことができた



(2) 主体的に伝え合う手立ての工夫

○2年生「すみれとあり」

読み取ったありの行動を、
動作化して友達に伝える



言葉で説明することに対して苦手意識のある児童も、
動作化でイメージがもちやすくなり、自分から友達に
伝えることができた



(2) 主体的に伝え合う手立て の工夫

○3年生「わたしたちの絵文字」
聞く時の視点と、それを踏まえた
意見の例を言葉ブックに綴じ、
いつでも確認ができるようにする

友達の意見を聞いて**自分の考え**
を広げたり、友達の意見を**踏まえた**
発言をしたりする姿が見られた



「言葉ブック」とは



光村図書の「言葉の宝箱」を参考に、6年間で身につけたい
「事物を表す言葉」「人柄を表す言葉」「心情を表す言葉」
を掲載した用語集

発表の時に使える言葉なども掲載している

この「言葉ブック」を作成し、全校児童に1冊ずつ配付

(3) 文章を読み取る力をつけるための手立て

○低学年

- ・「なにが」「どうした」に注目し、色分けして囲みながら読み取る
- ・内容ごとに、赤、青、黒など色分けしてサイドラインを引き、同じように色分けしたワークシートにまとめたり、「はじめに」「つぎに」など順番を表す言葉を使ってまとめる
⇒パターン化し、同じ手順で学習を進める



- ・学習パターンが身につくことで、見通しをもち、自信をもって学習を進められる姿が見られた
- ・色分けをしたことで、内容をつかめ、読み取ることができた児童が多かった

(3) 文章を読み取る力をつけるための手立て

○中・高学年

- ・要点の見つけ方を、時間をかけて指導し、練習する
⇒ 要点を見つけ、サイドラインを引き、短く表にまとめたり、
吹き出して自分の意見を書いたりする
- ・より定着を図るため、新聞記事の要約を宿題に出す



説明的文章の読み取り方を丁寧に指導し、繰り返し行う
ことで、児童が自然と活用して内容を正しく読み取り、
要点をまとめたり、要約する力が伸びてきている

(3) 資料を読み取る力をつけるための手立て

○カリキュラム・マネジメント (教科横断的な学習)

- ・各学年で年間指導計画を「伝え合い」と「資料の読み取り」の2つの視点で見直す

・2つの視点において、教科横断的に指導に取り組む

[illegible]

(3) 資料を読み取る力をつけるための手立て

○6年生「雪は新しいエネルギー」

- ・資料の分析の仕方 (①グラフの読み方②情報を比較しながらグラフ全体の傾向を捉えること) と、文章と資料を合わせて読むポイントを『アイスは暑いほどおいしい?』の文章で指導する
- ・グラフと文章を合わせて読み、「筆者の説明の工夫」について考え、グループで話し合う



読み方を指導した上で、文章の中での資料の効果について考えさせることで、**自分なりに読み取り、考えをもち、伝え合う**ことができた

(4) 言語能力向上のための手立てと児童の変容

文章読解5分間ドリルの活用

※朝の学習タイムで活用

- 1年生：短時間で集中して取り組み、ほとんどの児童が自力で解いて進められた。
- 2年生：すぐに答えを出さず、問題文の前後に注意して読み取れる児童が増えた。読み取る時間も短くなった。
- 3年生：時間内で読みつつ、設問の意図を理解したり、答え方に注意を払ったりする力が身についた。
- 4～6年生：内容が簡単のため、下位生の力を伸ばすのに良かった。
読む力がある児童には、もう少し高度な内容（ちばっ子チャレンジなど）の方がよい。

9 成果と課題

<成果>

- 「単元のめあて」と「振り返り」を、教師と児童が意識することで、指導の内容が精選されるとともに、児童自身が自分の学びの過程を捉えることにつながった。
- 振り返りを継続することで、書く力、まとめる力の向上が見られた。
- 「説明文や資料の読み方を丁寧に指導する」⇒「指導した読み方を継続する」ことで読み取りの技能の向上が見られた。
- 「伝え合いの視点」や「聞く側の視点」を与えることで、ねらいに沿った伝え合いや、話し合いに深まりが見られた。

9 成果と課題

<課題>

- ・ 振り返りの時間の確保
- ・ 伝え合いの視点を絞るための発問
- ・ 話し合いによって考えをより深めることを目指したい
⇒ 「聞き手」を育てる指導のあり方
- ・ 「伝え合い」が十分に行えていない児童や、書くことにとっても時間がかかる、配慮を要する児童への手立て
- ・ 継続することで効果が上がるが、実態に応じ、内容（ドリルなど）の精選が必要